

English Cafe

vol. 1

子どもの学びに繋がる外国語の評価を模索して

遠藤 恵利子 (東北学院大学 非常勤講師 元・仙台市立向山小学校教諭,
現・仙台市立向山小教科指導エキスパート)

小学校英語の3ステップ **高木 修一** (福島大学 人間発達文化学類 准教授)



子どもの学びに繋がる外国語の評価を模索して

新学習指導要領の本格実施に向けて、現場教師にとっての大きな課題は評価です。移行期間だからこそいろいろと試行してみる時間を与えられていると捉え、ここでは現場の若い教師と共にいくつかの試みを重ねている事例の一端を紹介することにします。

1 目標山登り ― めざすもの(姿)を可視化

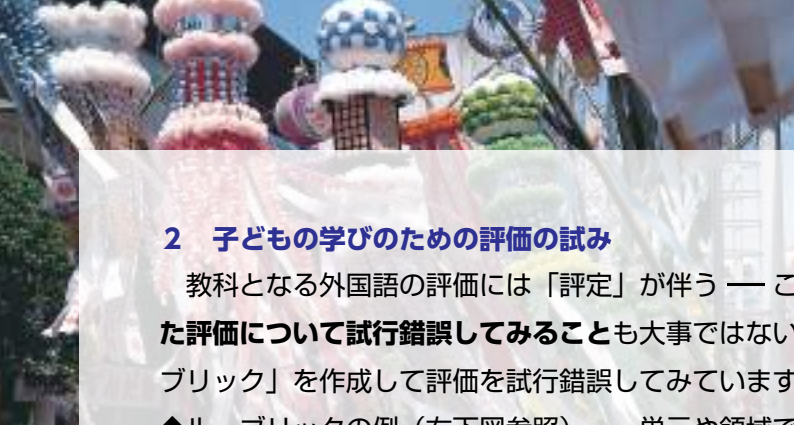
単元の目標と毎時間の内容、めざすことを山登りの絵図で提示して可視化し、主体的に学びに向かってほしいと考えました。(右絵図参照)

- ◆1～6年生まで全学年で活用。山頂が単元の目標を表す。
1 単位時間ごとの内容と評価**規**準をシンプルな表現にしたカードを準備。
- ◆山の麓のカードが導入の1時間目の内容。
2～3時間目と山登りをして内容が進む。
- ◆最初、カードは全部裏返し。(上の絵図)
導入の teacher talk やデモンストレーションの後で、子どもが英語を使った場面や目的、意味に気づいたり予想したりしてから、「そうです！今度の登山は〇〇を目指しましょう！」と、頂上(学習の到達点)を示す。
- ◆そして「今日は登山が始まったばかり、〇〇の言い方を知ることによろう！」と、山麓の1時間目の目標カードを開けて1時間目の授業の内容に入る。



目標の可視化を工夫してみると、高学年ともなると「自分はまだ山の中腹だから、がんばろう！」などと自分の到達点を視覚的に自己評価し、目標を意識して授業に臨んでいます。

開隆堂



2 子どもの学びのための評価の試み

教科となる外国語の評価には「評定」が伴う——これは大きな課題です。移行期間にこそ評定を意識した評価について試行錯誤してみることも大事ではないかと考えます。様々な評価方法のひとつである「ルーブリック」を作成して評価を試行錯誤してみています。

◆ルーブリックの例（右下図参照）……単元や領域で設定した評価規準（育てたい姿）に示した子どもの学習の姿にどの程度到達しているのかを、段階的に具体的な姿で設定したもの（評価基準）を、『表』（観点、評価規準、3～4段階の評価基準、右図の例はA, B, C）に作成。

◆ルーブリックの活用

・ルーブリックは単元の学習に入ったら教師と子どもとで共有し、教師は子どもに到達してほしい姿を示し、子どもはめざすべき姿を意識して学習に向かいます。

目標を共有することによって学習過程で振り返りや中間評価に活用することができます。

・右図の例は『話す：やりとり』のルーブリック。「誕生日を尋ねる、伝える」という場面・目的がはっきりとしているパフォーマンス課題に取り組みます。

子どもは活動前にめざす目標値に、○印などのチェックを入れ、活動後に自分の到達度に再度チェックを入れて自己評価をします。教師もルーブリックの基準で一人ひとりの姿を評価します。

・子どもは「○○ができた。」「○○をよくしたい。」など自分で成果と課題を意識し、目的意識や学習課題意識を高く持って学習を継続していきます。

・教師は、ルーブリックの到達目標が達成できるように、指導内容や指導方法を改善しながら単元の学習を進めます。

ルーブリックを活用した評価の工夫をしてみて、複数の教師で評価をするなど客観性を高めるための工夫や、教師が育てたい姿を明確にすることとそれを達成するための指導方法と教材の工夫、そして教師自身の授業評価と子どもの学びに繋がる評価の大切さなどを再認識し、今後も現場教師と共に評価について試行してみたいと考えています。

【『誕生日はいつ？』『話す：やりとり』のルーブリックの例】

※	評価規準	A	B	C
1	12ヶ月や日付の言い方を理解し、誕生日を尋ね合う表現 ・ When is your birthday? ・ My birthday is May 11th). を使って、尋ね合 うことができる。	12ヶ月や日付の言 い方を正しく理解 し、発音やイントネ ーションにも気を付 けて尋ねたり、自分 の誕生日を伝えたり することができる。	誕生日や日付の言い 方を使って、誕生日を 伝えたり、尋ねたりす ることができる。	誕生日の尋ね方や伝 え方などについて、友 達や先生の助けを借 りながら、自分の誕生 日を伝えることができ る。
2	誕生日について 分かりやすく伝 えたり、尋ねたり することができる。 断る。	相手の言うことを理 解して、繰り返した り、相様さうったり し、さらに既習事項 を生かして自分が誕 生日にほしい物を付 け加えたりして話す ことができる。	相手に理解してもら うために、 When is -? My birthday is - を使って、はっきりと 話し、相手の話にも反 応したりときには聞 き返したりしている。	自分のことをなんと か伝えることができ るが、相手のことを理 解して反応したり、聞 き返したりすること はできていない。
3	相手を意識して 言葉の使い方や 表現を工夫する ことができる。	声の大きさや話す早 さには注意し、相手の 反応を見てジェスチ ャーを加えている。	声の大きさや話す早 さには注意している。	声がかさかったり、語 尾がはっきりしなか ったり、アイコンタク トがなかったりする。

遠藤恵利子

東北学院大学 非常勤講師
元・仙台市立向山小学校教諭、
現・仙台市立向山小学校教科指導エキスパート

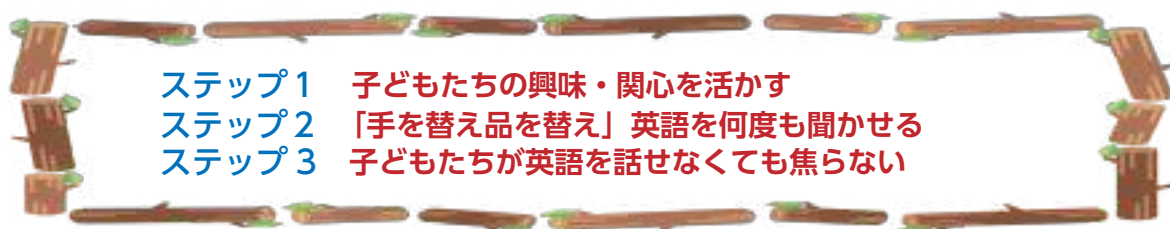


小学校英語の3ステップ

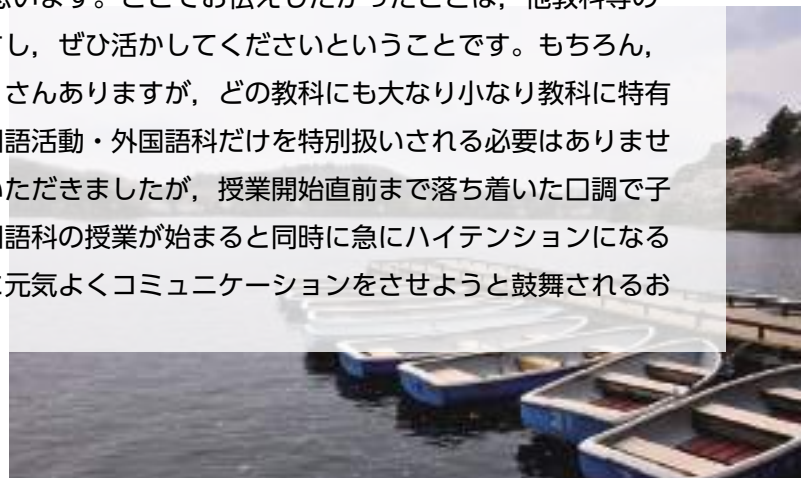
新学習指導要領の完全実施が目前に迫ってきました。小学校にお邪魔させていただく機会がありますが、先生方の様子からは「準備なんて全くできていないよ…。」「移行期に対応するだけで手一杯だったのに…」といった心の声が聞こえてくるようです。その一方で、このような先生方の声をかき消すように、「外国語活動が始まってもう8年間も経っているし、2年間の移行期間もあった。これだけの猶予があったのだから、もうばっちり準備ができているでしょう。」という耳の痛い話も聞こえてきます。しかし、この話は一見、筋が通っているように見えますが、本当はそうでもないと思います。というのは、これまでの期間ずっと外国語活動や外国語科が行われる学年だけを担当されてきた先生方は、ごく少数ではないでしょうか。また、移行期に外国語科を経験されずに、これから外国語科を初めて担当されるという先生方もたくさんいらっしゃると思います。このように、先生方の準備状況が一律ではないことに目が向けられることはなく、10年の準備期間を前提として、高い目標ばかりが強調されている

という状況が先生方の悩みを深くしているのかもしれない。

先生方の準備状況が様々なわけですから、新学習指導要領に基づく完璧な授業をされようとしても、残念ながらうまくいく方ばかりではないでしょう。大量の課題ばかりが残り、何をどのように修正するべきかわからず途方に暮れる方も多いのではないのでしょうか。このような時は、先生方が子どもたちを指導する際に意識されているように、1つひとつのステップを丁寧に踏まれることが大切です。例えば、器械運動の跳び箱で子どもたちに台上前転を指導される場合、最初から跳び箱と踏み切り板を設置して、子どもたちに見よう見まねでやらせるということはないでしょう。何度やらせたところで、ほとんどの子どもはできるようにはなりませんし、なにより子どもたちのケガが心配です。最初はマットの上で練習をしたり、助走をせずに跳び箱の前で前転をする練習をしたり、1つひとつ課題をクリアさせるだろうと思います。このように、小学校英語の指導でも最初から完璧を目指すのではなく、ご自身の準備状況に応じたスモール・ステップで進めていかれることが重要です。そこで、今回は小学校英語の授業改善に向けた3つのステップをご紹介します。



まずステップ1を読まれた時、どのように思われたでしょうか。「小学校英語の3ステップと題しておきながら、他教科等の指導にも関わる当然のことを言っているだけではないか。」と思われた方がいらっしゃれば、実は既にこのステップの半分はクリアされていると思います。ここでお伝えしたかったことは、他教科等の指導経験が外国語活動・外国語科の指導に活かれますし、ぜひ活かしてくださいということです。もちろん、外国語活動・外国語科に特有な指導のポイントもたくさんありますが、どの教科にも大なり小なり教科に特有な指導のポイントがあると思います。そのため、外国語活動・外国語科だけを特別扱いされる必要はありません。今までにたくさんの小学校英語の授業を見せていただきましたが、授業開始直前まで落ち着いた口調で子どもたちに話をされていた先生が、外国語活動・外国語科の授業が始まると同時に急にハイテンションになるような姿を何度か見たことがあります。子どもたちに元気よくコミュニケーションをさせようと鼓舞されるお



気持ちもよくわかりますが、まずは他教科等の指導で行われているように、子どもたちの興味・関心を引き出すことに重点を置いてみてはいかがでしょうか。英語の表現やコミュニケーションに子どもたちの興味を向けさせることができれば、子どもたちは自然と元気よくコミュニケーションに取り組みます。

他教科等の指導と同じように、外国語活動・外国語科でも子どもたちの興味・関心を引き出すことができるようになれば、次のステップは子どもたちに英語を何度も聞かせることです。英語を何度も聞かせるのは簡単なように思えますが、そんなことはありません。英語であっても日本語であっても、そして子どもであっても大人であっても、ただ機械的に同じことを繰り返し聞くというのは容易ではありません。そのため、子どもたちに慣れ親しませたい、身につけさせたい英語の表現を機械的に繰り返すのではなく、子どもたちの興味・関心のある話題を取り上げながら、自然な流れで繰り返したくさん聞かせることが大切です。もちろん、なかなか子どもたちの興味・関心のある話題が思いつかないという場合もあると思います。そのような時でも、子どもたちが集中して何度も聞きたくするような工夫をされれば、それで十分です。まさに、手を替え品を替え、自然な流れで子どもたちに英語を繰り返し聞かせてみましょう。

子どもたちに英語を何度も聞かせたら（十分なインプットができれば）、今度は子どもたちに英語を話させてみましょう。最後のステップは、この英語を話させる時に関するものです。十分にインプットができていれば、子どもたちから英語が聞こえてくることが多いと思います。しかし、困った顔をして何も話さない子ども、ジェスチャーや単語で伝えようとしているが表現が出てこない子ども、または、完全に日本語しか話していない子どもなど、思ったよりも子どもたちが英語を話せていないこともあるでしょう。このような時、子どもたちと同じように先生方も焦燥感に駆られるかもしれません。しかし、ここで先生方が焦る必要は全くありません。子どもたちが話せない理由には様々あるでしょうが、多くの場合、まだ子どもたちへのインプットが十分でない可能性が高いでしょう。英語を話す段階に移ってしまったから、英語を聞かせる段階に戻れないということはありません。インプットが十分でなかったのであれば、また英語の音声を聞かせればよいのです。しかも、英語を話させてみてから、改めて英語の音声を聞かせることにはメリットもあります。「うまく話せなかった。」「なんていえば良かったのだろう。」と焦っている子どもたちは、次はうまく話せるようにするため、最初よりも注意して英語を聞こうとするはずですが、もちろん、最初から話す活動がうまくいけば、それにこしたことはありません。しかし、もしうまくいかなかったとしても、その時は子どもたちの焦る気持ちを逆手に取れるチャンスだと思って、先生方にはどっしり構えていただきたいと思います。

今回は小学校英語の3ステップを紹介しました。
先生方の外国語活動・外国語科の授業改善が少しずつ進んでいく一助になれば幸いです。

高木修一
福島大学 人間発達文化学類 准教授



English Cafe vol.1

非売品

2019年5月30日印刷 2019年6月7日発行 編集兼発行人 大熊隆晴

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業), (5684)6118(販売), (5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 ☎011(231)0403
東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階 ☎022(742)1213
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階 ☎052(789)1741
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 ☎06(6531)5782
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階 ☎092(733)0174